

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●菊沢隆徳調教師がJRA通算300勝を達成

2月10日(火・代替競馬)の1回東京4日・第2レースではジーティーブラックが1着となり、同馬を管理する菊沢隆徳調教師(美浦)は、現役72人目となるJRA通算300勝(延べ3700頭目)を達成しました。

●本間忍調教師がJRA通算200勝を達成

2月10日(火・代替競馬)の1回東京4日・第12レースではキタノライプリーが1着となり、同馬を管理する本間忍調教師(美浦)は、現役109人目となるJRA通算200勝(延べ4977頭目)を達成しました。

●東京・京都で開催中止

2月7日(土)の1回東京3日は、積雪の影響で安全な競馬の実施が困難であると判断され、第8レース以降が取りやめとなりました(代替競馬・続行競馬の実施なし)。1日の途中での中止は2020年3月29日(日)の3回中山2日(降雪のため第3レース以降取りやめ)以来のこととなります。また翌8日(日)の1回東京4日および2回京都4日は積雪・降雪のため中止(同日の1回小倉6日は発走時刻変更および障害戦を取りやめのうえで開催)となり、いずれも10日(火)に代替競馬が開催されました。なお京都の代替競馬は当初9日(月)と発表されましたが、積雪の影響によりこれも中止、10日(火)に変更となったものです。東京競馬の開催中止は2019年10月13日(日)の4回東京4日(台風)以来、京都競馬の開催中止は2025年2月8日(土)の1回京都3日(積雪)以来のこととなります。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●テンカジョウがクイーン賞(船橋)で人気に応じて重賞4勝目

クイーン賞(JpnⅢ、2月11日、船橋、1,800万円)は、中団から差を詰めた1番人気のテンカジョウ(松山弘平騎手、牝5歳、父サンダースノー)が、残り100万円を切った辺りで差し切りしました。JRAから大井への移籍緒戦だったマールマウンテンが2馬身半差の2着に入り、2番人気のメモリアカフェは3着、3番人気のアピーリングルックは4着、ライオットガールは8着に敗れています。

●佐賀記念(佐賀)はカゼノランナーが圧勝、重賞初制覇

佐賀記念(JpnⅢ、2月12日、佐賀、2,000万円)は、好発から2番手に控えた2番人気のカゼノランナー(西村淳也騎手、牡5歳、父キズナ)が向正面半ばで先頭を奪うと、後続を6馬身引き離しました。逃げて一旦は3番手に後退した昨年の覇者メイショウフンジンが巻き返して2着に入り、単勝1.8倍で断然人気のカズタンジャーは4着、3番人気のデルマソトガケは5着、ヘリオスは9着でした。

●2月18日の雲取賞(大井)にトリグラフヒル、マクリールが参戦

雲取賞(JpnⅢ、3歳、2月18日、大井、1,800万円)は、未勝利戦と1勝クラスを連勝中のトリグラフヒルとマクリールが双璧、リアライズグリントが続き、以下アヤサンジョウタロ(船橋)、エンドレスソロウ(大井)、ケイツーリーブル、ゼーロス(大井)までが争覇圏内と考えられます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1ハービーダイクS～レガートが2年ぶり2度目の優勝

2月7日にニュージーランドのテラバ競馬場で行われたG1ハービーダイクS(3歳上、芝2,000万円)はO.ポッソン騎手が手綱を取ったレガート(牝6歳、父プロワジュール、K.&B.ケルソ厩舎)が後方から鋭く伸びて優勝しました。レガートは2022年11月にG1ニュージーランド1000ギニー(芝1,600万円)でG1初制覇を果たすと、翌年3月にはオーストラリアのG1オーストラリアンギニー(芝1,600万円)も制覇。その後、24年2月にはG1ハービーダイクSを制しましたが、そこからは今年1月のG2ソーンドンマイル4着まで9戦してリステッドの1勝のみに終わっていました。なお、ポッソン騎手(45歳)は24年12月に引退しましたが、昨年8月に復帰。このレースでG1・100勝目となりました。

●アブダビゴールドC～日本のシュトラウスが制す

今年新設されたアブダビゴールドC(リステッド、北半球産馬4歳上、南半球産馬3歳上、芝1,600万円)が2月7日にUAEのアブダビ競馬場で行われました。勝ったのは日本から遠征したシュトラウス(牡5歳、父モーリス、美浦・武井亮厩舎)。J.モレイラ騎手を背に道中5、6番手追走から直線で抜け出すと、最後はカタールのダークトルーパーに1.04馬身差をつけて優勝し、1着賞金60万ドル(約9360万円/1米ドル156円で換算)を手に入れました。